

令和元年度(2019年度)  
第1回 北海道ニューリーダーネットワーク検討会議  
資料

令和元年(2019年)8月30日  
北海道総合政策部地域振興局地域政策課

# ニューリーダーネットワーク構築の背景

## ■地域づくりの現状

- ◆ 道では、全国を上回るスピードで人口減少や少子高齢化が進行しており、特に地方では、産業の担い手不足、日常生活に必要な施設（スーパーやガソリンスタンド等）の閉店・撤退や公共交通機関の減便などによる生活利便性の低下、高齢者の見守り対策など、様々な地域課題があり、行政だけではこれらの様々な地域課題に対応することは困難な状況である。

## ■ネットワーク機能の目的

- ◆ 地域を輝かせ、より元気にするためには、地域づくりを牽引する人材（地域リーダー）が必要。
- ◆ 地域リーダーが相互に繋がることで、互いに連携・協力しながら、持続可能な地域づくりを実践していく仕組みを構築することが可能。

### 知事公約

- ◆ 官民が融合して、各地の若者による能力向上のための研修の企画・提案、合宿などを支援し、地域リーダーの育成を図るとともに、業種・地域を越えたネットワークの構築を図り、課題解決に取り組む、「北海道ニューリーダーネットワーク(仮称)」を創設します。

# 求められる地域リーダー像とその役割

## ■ 地域で求められているリーダー像

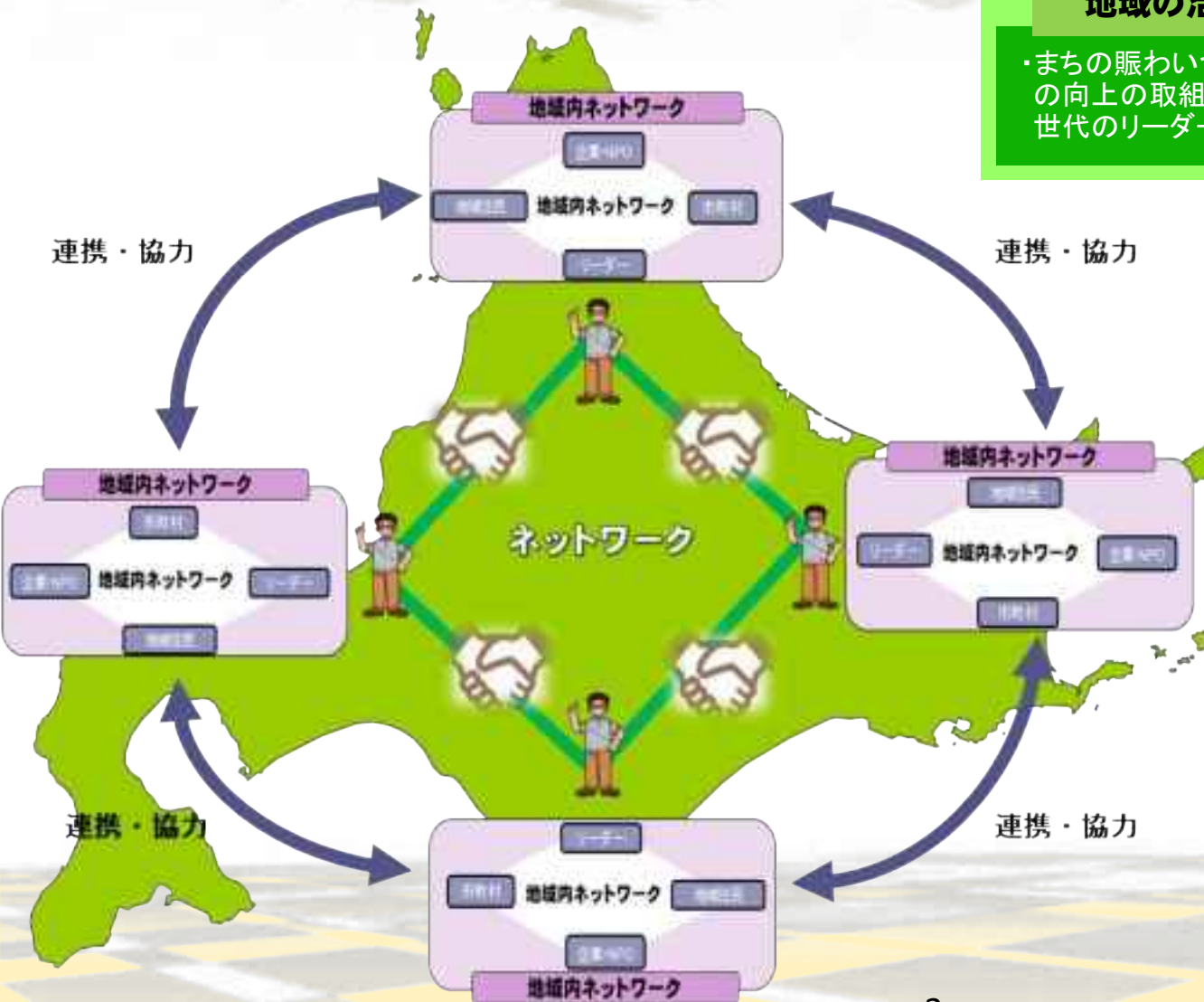
- これからの北海道を担っていく若い世代で、「北海道を良くしたい」という意欲に満ちた実践力のある人材
- 地域の意見をまとめる調整力、地域資源の価値を高めていく企画力・実践力などの能力を身に付けている人材

## ■ 地域リーダーの役割

- 地域づくりのスキルアップを図りながら、北海道の未来を見据えた持続可能な地域づくりを担っていく。
- 共に学んだリーダー達とのネットワークを活かし、各地域の情報を共有して、互いに連携・協力しながら、持続可能な地域づくりを実践していくとともに、道をはじめ行政に対して積極的に提言していく。

# ニューリーダーネットワークの概念（イメージ）

## 北海道ニューリーダーネットワーク



## 期待できる効果

### 地域の活性化

・まちの賑わいづくりや魅力の向上の取組のほか、次世代のリーダー育成など

### 地域経済の活性化

・新たな商品開発や販路開拓のほか、観光戦略など

## リーダー

- 各地域の情報共有
  - ・先進的な取組の横展開
  - ・課題解決に向けたヒントの入手
- 広域的な次世代リーダー育成
- 地域間を繋ぐコーディネート

## リーダーへのサポート

- スキルアップ（交流会・研修など）
- ネットワーク構築
- 専門家による活動支援
- 取組成果の情報発信 など

# ニューリーダーネットワーク検討スケジュール

## ○検討スケジュール

時 期		検討・実施内容	備 考
8月	上旬		
	中旬		
	下旬	第1回検討会議（意見交換）	
9月	上旬		
	中旬		
	下旬	第2回検討会議（中間報告案の検討）	
10月	上旬		
	中旬	現地調査（地域づくり関係者との意見交換会）	
	下旬		
11月	上旬	第3回検討会議（最終報告内容の整理・意見交換）	
	中旬		
	下旬	検討結果報告	
12月	上旬		
	中旬		
	下旬		

# 現地調査（意見交換会）開催(案)①

## 開催時期

10月開催予定（日程等は別途調整）

## 意見交換会

### ○目的

地域リーダーが求めるスキルアップに必要な支援や、ネットワークの構築など、地域づくりに関わる方々の意見等を把握する。

### ○開催地の（総合）振興局、市町村及び検討会議委員等から推薦のあった以下の方々 10名程度

- ・ 地域づくり活動に積極的に取り組んでいる団体や個人
- ・ 地域づくり活動を支援している団体・個人
- ・ 地域づくり活動に関係している教育関係者（社会教育主事など）
- ・ 市町村職員、地域おこし協力隊員 など

### ○道内1箇所

次ページ開催地案のとおり

# 現地調査（意見交換会）開催（案）②

## 開催地案

No.	振興局	開催地案(or)	選 定 理 由
1	留萌	留萌市 遠別町 天塩町	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人口流出により、過疎化が著しく、高齢化率も36.2%と全道平均（29.1%）より高い地域（H27国勢調査）であり、地域づくり活動の促進が求められている。</li> <li>○ 遠別町のNPO法人えんべつ地域おこし協力隊による遠別農業高校活性化プロジェクトや天塩町の「相乗り事業「ノッテコ」」などの特徴的な取組がある</li> </ul>
2	空知	岩見沢市 歌志内市	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 旧産炭地が多く、夕張市、歌志内市、上砂川町は高齢化率が50%を超えており、地域づくり活動の促進が求められている</li> <li>○ 沼田町の「農村型コンパクトエコタウン構想」、三笠市の高校生レストラン、栗山町の「（合）オフィスくりおこ」（地域おこし協力隊員が起業）などの特徴的な取組がある</li> </ul>
3	十勝	帯広市 上士幌町 士幌町	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 芽室町、上士幌町、士幌町、帯広市、大樹町など、移住・定住対策や地域創生に積極的に取り組んでいる市町村が多い</li> <li>○ 総務省の人口動態実態調査(2019.1.1現在)によると、管内の全市町村で前年より人口が減少しているが、社会増減だけを見ると、上士幌町と豊頃町だけは前年より増加している</li> </ul>
4	上川	旭川市 東川町	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 下川町、東川町、当麻町、東神楽町をはじめ、移住・定住対策等に積極的に取り組んでいる市町村が多い。</li> <li>○ 総務省の人口動態実態調査(2019.1.1現在)によると、管内のほとんどの市町村で前年より人口が減少する中、東川町と占冠村は人口が増加している</li> </ul>
5	胆振	室蘭市 厚真町	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 胆振東部地域は去年の地震の影響により人口流出等が懸念され、地域づくり活動の促進が求められている</li> <li>○ 厚真町の移住・定住対策、むかわ町の恐竜化石を活用した地域づくりなど、特徴的な取組がある</li> </ul>

# ご検討いただきたい事項

---

---

- 1 地域リーダーのスキルアップ支援の全体像
- 2 支援する地域リーダーの条件・定員・選考方法
- 3 地域リーダーへの支援内容
- 4 マスターリーダー(仮称)への活動支援  
※マスターリーダー(仮称) … 研修修了者
- 5 ニューリーダーネットワークの構築



# 1. 地域リーダーのスキルアップ支援の全体像

## 趣旨

北海道の将来を担っていく地域リーダーのスキルアップやノウハウ向上に向けた支援を行うとともに、そのリーダーの方々による業種や地域を越えたネットワークを構築することにより、地域が抱える課題の解決や特性を生かした地域づくりを推進し、個性豊かで活力ある北海道を目指す。

### 案A

取組項目	R2	R3	R4	概要
スキルアップ等支援	15名	15名		地域内の多様な主体の核となって、地域づくりを担っていくために必要と思われる研修等を実施。 【座学研修】3回程度、【現地研修】1回、【特別研修】1回
活動支援		随時	随時	地域づくり活動のプランニングや課題解決の方法、地域内ネットワークの形成などをアドバイザーにより支援するとともに、優れた活動状況はホームページ等で情報発信。スキルアップ等支援の翌年度は、研修講師として、事例発表などを行うほか、2期生との交流を図る。
北の未来づくり交流会	1回	1回		知事ほか、関係・支援団体との交流会を開催し、参加者が行っている地域活動や、これから行う地域活動についてプレゼンし、支援者や協力者を募る。
振り返り				本事業全体の成果報告書の作成。

### 案B

取組項目	R2	R3	R4	概要
スキルアップ等支援	42名	42名	42名	地域内の多様な主体の核となって、地域づくりを担っていくために必要と思われる交流研修会等を実施。 【交流研修会】2回 【夜なべ談義(地方開催)】1回
活動支援		随時	随時	地域づくり活動のプランニングや課題解決の方法、地域内ネットワークの形成などをアドバイザーにより支援するとともに、優れた活動状況はホームページ等で情報発信。

## 2. 支援する地域リーダーの条件・定員・選考方法①

項 目	内 容		考 え 方
支援する地域リーダーの条件	<p>現在、地域づくり活動に携わっており、「北海道をよくしたい」という意欲に満ちた方（年齢：30歳～45歳以下）</p> <p>※ ただし、<u>市町村長がこれからの地域を担っていく人材として推薦した者とする。</u></p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ すぐに地域で活躍できる方を求めているため、既に地域である程度活躍されている方のスキルやノウハウの向上を目的とした。</li> <li>・ 年齢はこれから10～20年後くらいの北海道を担う観点から限定。</li> <li>・ 地域づくりには地域の協力が不可欠であることから、市町村長の推薦を条件とした。</li> </ul>
定 員	案A	年15名（2年間で計30名）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1振興局各2名程度、2年間で計30名との考えから、定員を15名とした。</li> <li>・ その後については、各地域のマスターリーダーや社会教育士などが、他地域とも連携しながら次のリーダーを育てていく。</li> </ul>
	案B	年42名（3年間で計126名）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1振興局各3名程度との考えから、定員を42名とした。</li> <li>・ その後については、各地域のマスターリーダーや社会教育士などが、他地域とも連携しながら次のリーダーを育てていく。</li> </ul>

## 2. 支援する地域リーダーの条件・定員・選考方法②

項 目	内 容
選考方法	<p>道関係課職員及び地域づくりに精通する有識者（検討会議メンバー数名）により、参加申込時に提出していただくエントリーシートをもとに書面審査を実施。</p> <p>◎審査基準 下記項目について、各審査員が採点。最高点と最低点を除外した平均点を算出し、上位者から選考。</p> <p>○地域づくり活動への従事年 … 継続性</p> <p>○現在取り組み及びこれから取り組もうとしている活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・積極性 … 積極的・意欲的な取組であること</li><li>・先進性 … 先進的な取組であること</li><li>・独自性 … 地域特性を活かすなど、独自の取組であること</li><li>・広域性 … 複数の団体との連携や、例えば「観光」と「教育」など複数分野の関係者を巻き込んだ取組であること</li><li>・地域の巻込度合い … 地域住民を巻き込んだ取組であること</li><li>・達成度・実現性 … 現在の取組についてはその達成度、これからの取組についてはその実現性</li></ul>

# 3. 案Aの支援内容（R2～R3）

## ●考え方

### 1 1回当たり2、3日程度の研修を実施

参加者には、団体等の代表や副業をお持ちの方もいることが想定されるため、土日を中心とした短期分散型とする。

### 2 地域づくり全般で活用できる研修（座学）内容

参加者は、各地域でそれぞれ違う分野の活動されていることから、研修内容は特定分野に絞らず、今後、活動を拡充する場合や、新たな活動に取り組む際の手助けとなるよう、地域づくり全般で活用できる内容とする。

### 3 現地研修の実施

参加者により理解を深めていただくために、フィールドワークやワークショップ等を取り入れた現地研修を実施する。

### 4 知事の講演及び交流会への出席

知事が北海道ニューリーダーネットワーク（仮称）にかける想いや参加者の皆さんへの期待を語る講演を行うほか、交流会にも参加し、参加者と意見交換を行い、交流を深める。

### 5 特別研修（専門分野の研修支援）を実施

参加者が、地域で取り組んでいる活動が、より円滑かつ効果的に実施されるよう、希望する国や専門機関等が実施する研修の受講を支援する。

# 3. 案Aの支援内容 (R2~R3) ①

## ●地域リーダーに求められる能力とスキル

求められる能力	情報収集・分析力	発信する力	管理する力	ネットワークを創る力
	・地域の課題や資源を発見し、認識する力	・取組を企画、実行する力 ・効果的な情報発信ができる力	・運営・管理能力 ・ブラッシュアップ力 ・リスク管理能力	・組織（チーム）を創り、運営する力 ・ネットワークを創る力
必要なスキル	リサーチ力	プロデュース力	マネジメント力	
	地域内外の情報を収集し、分析する力	地域課題の解決方法や地域資源の活用方法を考える力	取組を運営・管理する力	
		コーディネート力	ブランディング力	
		多様な資源をつなぐ・結ぶ・まとめる	磨き上げ、ブランド化する力	
		プレゼンテーション力		
		効果的に情報発信する力		
		ファシリテーション力		
	話し合い・協働を活性化させる力			

# 3. 案Aの支援内容 (R2~R3) ②

## ●研修・支援内容の例

求められる能力	情報収集・分析力 ・地域の課題や資源を発見し、認識する力	発信する力 ・取組を企画、実行する力 ・効果的な情報発信ができる力	管理する力 ・運営・管理能力 ・ブラッシュアップ力 ・リスク管理能力	ネットワークを創る力 ・組織(チーム)を創り、運営する力 ・ネットワークを創る力
研修内容	基礎研修	プレゼンテーション研修	マーケティング・ブランディング研修	
	現地研修(フィールドワーク・ワークショップ)			
	特別研修			
	北の未来づくり交流会			

# 3. 案Aの支援内容 (R2~R3) ③

## ●カリキュラム例

回数	時期	曜日	区分	場所	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	
1	7月	土	開講式	札幌市	・開校式・知事による講義			・各研修生の自己紹介(各々が取り組んでいる地域活動等のプレゼン)				宿泊	
		日			・基礎研修			(情報収集・分析手法、地域づくりに関する支援制度や補助制度、先進事例紹介等)					
2	9月	土	マーケティング・ブランディング研修	札幌市	マーケティング研修①			マーケティング研修②				宿泊	
		日			ブランディング研修①			ブランディング研修②					
3	10月	平日	現地研修	現地(分科会ごと)	現地への移動			現地の地域づくり団体訪問・フィールドワーク				宿泊	
					フィールドワーク			ワークショップ (活動団体と関係者、市町村、地域住民、地元商工会等も参加)					<b>分科会例</b> 1 生活支援(買い物・移動支援等) 2 地域資源の発掘・ブランド化 3 地域運営組織の運営
					報告書作成			移動					
4	12月	土	プレゼンテーション研修・閉講式	札幌市	プレゼンテーション研修①			プレゼンテーション研修②				宿泊	
		日			プレゼンテーション研修③			プレゼンテーション研修④		・北の未来づくり交流会に係る事前準備 ・閉講式			
5	2月	日	北の未来づくり交流会	札幌市	・研修成果発表 ・各研修生による活動プレゼン			・各研修生による活動プレゼン			・交流会(知事出席予定)		
-	随時	随時	特別研修	各自	・各研修生が取り組む活動に特化した国・民間による研修の受講を支援								

### 3. 案Aの支援内容 (R2~R3) ④

#### ●研修・支援内容例

研 修	内 容
基礎研修	インターネット等を使用し、地域づくりに関する情報、関連支援・補助制度、クラウドファンディング等の資金調達方法や各種相談窓口等の調べ方等を修得する。
プレゼンテーション研修	企画や取組等を住民などにわかりやすく提案、説明、伝達するための基本的技法を修得する。
マーケティング・ブランディング研修	マーケティングの考え方を学び、地域資源の掘り起こしを通じて、地域活性化のための戦略づくりを修得する。また、地域の資源や魅力を再発見・再認識し、それらを「強み」として地域ブランドを生み出す実践的なアクションプランの構築スキルの修得を図る。
現地研修	地域づくり活動が行われている現地に出向き、聞き取りやアンケートなどを実施するとともに、課題解決に向けてワークショップを開催する。
元気な未来づくり交流会	参加者各人が行っている又はこれから行おうとしている地域づくりについて発表し、支援者・協力者などを募るとともに、関係者との交流を深める。
特別研修	参加者各人が地域で取り組んでいる活動に必要な国や専門機関等が実施する研修の受講を支援する。



# 3. 案Bの支援内容 (R2～R3)

## ●カリキュラム例

回数	時期	曜日	区分	場所	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時
1	7月	土	交流研修会①	札幌市		知事講話	スキルアップ研修	講演	グループ討議	交流会	
2	9月	土	交流研修会②	札幌市		スキルアップ研修		講演	グループ討議	交流会	
3	11月	土	夜なべ談義	地方		講演	グループ討議	発表会及び意見交換会	知事あいさつ	夜なべ談義	

- ※ グループ討議の議題は、第1回と第2回は同じ内容とする。また、講演内容はグループ討議の議題に沿うものとし、毎回切り口を変えたものとする。
- ※ スキルアップ研修についても、2回で1スキルの修得を目指す内容とする。
- ※ 第3回目の夜なべ談義では、道内地域が抱える課題等についての講演後、これらについて議論するグループ討議、発表及び意見交換会、夜なべ談義を実施する。

## 4. マスターリーダー（仮称）への活動支援

### 案A・B共通

#### ○アドバイザー（専門家）による活動支援（R3～R4）

地域での活動における課題解決の方法のほか、多様な主体による地域内ネットワークの形成などを支援。（有償のアドバイザー派遣は原則1回）

#### ○取組成果の情報発信（R2～）

優れた取組成果を道のHP等から情報発信。

### 案A

#### ○次年度研修への一部参加（R3）

R2のマスターリーダー（仮称）は、翌年のR3研修にも一部参加し、事例発表等を行うほか、ネットワークの活性化を図るため、R3研修参加者との交流も図る。

# 5. ニュージーリーダーネットワークの構築

## ■ 構築方法

年度	内 容	
R 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ SNS（Facebook等）で支援する地域リーダー同士をつなぐ。（道地域政策課も参加）道はネットワークの活性化を図るため、               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域づくりに関連する講演、研修会や支援制度等に関する情報を発信</li> <li>・ 参加者同士が相談・助言し合える仕組みを構築</li> <li>・ 参加者のニーズに応じ、機能を拡充</li> </ul> </li> </ul>	
R 3	案Aの場合	案Bの場合
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ R 2 の取組を継続</li> <li>○ R 2 マスターリーダーが R 3 研修の一部に事例発表者として参加し、R 3 に支援する地域リーダーとの交流を深める場を設けるなど、ネットワークの活性化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ R 2 の取組を継続</li> </ul>
R 4	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ R 3 の取組を継続</li> </ul>

## 期待できる効果

- 各地域の情報が共有され、先進的な取組の横展開が図られる。
- 各地域の住民に相互に高め合おうとする意識が生まれ、持続可能な地域づくりにつながる。
- ネットワークの活動を通じて、それぞれの地域の若者が、地域づくりへ積極的に参加しようとする意欲を促す機会になる。
- 各地域の活動が活発になることで、
  - ・ 住民の地域への愛着が高まるとともに、地域内で新たな連携が生まれ、地域コミュニティの再生や活性化が図られる。
  - ・ コミュニティビジネスの担い手等として雇用機会が拡大する。